

NAB2018 出展社情報

◆朋栄：4K UHD 最大 80 入力可能な 3M/E ビデオスイッチャー HVS-6000 を発表



4K UHD 最大 80 入力まで対応可能な 3M/E ビデオスイッチャー HVS-6000 を 6 月末に発売する。また、32 入力まで対応可能な 2M/E ビデオスイッチャー HVS-6000M を、2018 年末に発売する予定。HVS-6000 は、2018 年 4 月 9 日（月）から米国ラスベガス・コンベンションセンター（LVCC）で開催されるメディア、エンターテインメント、テクノロジー総合展示会「2018 NAB Show」（主催：全米放送事業者協会）にて展示される。

HVS-6000/HVS-6000M は、HD ビデオスイッチャー HVS-2000 のノウハウを継承しながら、その運用、操作、制御を変更することなく 4K UHD システムへスムーズに移行させ、安定した運用を可能にすることを旨として開発したビデオスイッチャー。

全ての入出力を 12G-SDI に対応させ、全てのプロセスを 4K 処理させるよう新たに設計を行い、HD/4K UHD のいずれの運用においても、同一の入出力数、M/E 数、キーヤー数での利用を可能にしている。将来的には Video over IP 入出力カードの開発も予定して製品構造から見直し、将来の IP ビデオ素材の共存にも対応できる、拡張性に優れたビデオスイッチャーとなっている。

■標準構成は 24 入力 / 24 出力 / 16AUX 出力の 2M/E スイッチャー

標準構成の HVS-6000/HVS-6000M は、24 入力 / 24 出力 / 16AUX 出力の 2M/E スイッチャーとして提供される。HVS-6000 は、12U の筐体に入力用スロット 5 基と入出力用スロット 2 基を持ち、オプションの入力拡張カード・出力拡張カードを挿入することにより、8 系統単位で入出力を自由に増設できる。さらに、M/E 用スロットに M/E 機能拡張カードを追加することで、最大 80 入力 / 32 出力または 64 入力 / 48 出力、32AUX 出力の 3M/E スイッチャーを実現する。HVS-6000M は、7U の筐体に

入力拡張カードを 1 枚増設することで 32 入力を実現することが可能。HVS-6000/HVS-6000M ともに、キーヤーは 1M/E あたり 4 つ利用でき、その全てで 2D DVE を利用することが可能。BKGD には、3D DVE を搭載し、HD 同様の 3D DVE トランジションやパース付き 2 チャンネル PinP パターンも標準で利用できる。このほか、マルチビューワー（MV）/DSK 用スロット 1 基に MV/DSK 拡張カードを搭載することにより、マルチビューワー機能または DSK 機能を強化することができる。

■3 種類のコントロールパネルと Web GUI を活用可能

コントロールパネルは、HVS-2000 用のメインコントロールパネルを利用することができ、2M/E タイプの HVS-22400U、3M/E タイプの HVS-33200U、発注時にボタン数やレバーの配置を変更することができる HVS-33550U の 3 種類を用意している。このほか、ラックサイズのコントロールパネル HVS-2120ROU も提供予定。コントロールパネルには、外部モニターを接続することができ、大型 GUI で多くのパラメーターを一覧表示しながら、素早く設定することを可能にしている。ブラウザ上で Web GUI を使用する簡易オペレーションにも対応しており、携帯・タブレットからコントロールすることも可能。

◆朋栄：12G 対応マトリクス搭載のルーティングスイッチャー MFR-6000 を発表

（12G-SDI 入出力に対応し、最大 144 入力 x 144 出力の入出力構成が可能なルーティングスイッチャー MFR-6000 を 2018 年 9 月末に発売いたします。ビデオスイッチャー HVS 同様に 2018 NAB Show にて展示される。

■12G 対応マトリクスを搭載し、SD から 4K UHD/8K まで利用可能

13U の筐体サイズを持ち拡張性に優れる MFR-6000 は、最大 16 枚の入出力増設カードを実装可能なルーティングスイッチャーで、昨年発売した最大 72 入力 x 72 出力の MFR-4000 の姉妹モデルとなる。12G 対応マトリクスを搭載したことにより、SD から 4K UHD/8K まで、結線方式を意識せずに混在させて運用す



ることが可能。12G-SDIに対応している入力増設 カード MFR-9SDI12G/出力増設カード MFR-9SDO12G を使用することにより9系統単位で増設でき、最大 144 入力 x 144 出力のマトリクス構成を可能にしている。quad link 3G-SDI と 12G-SDI の信号種変換、SQD (Square Division) と 2SI (2-Sample Interleave) のマッピング変換を可能にする Gearbox 機能搭載の増設カードも用意しており、4K UHD/8K を含めた幅広い解像度のルーティングに対応している。

■ CPU 基板、電源の冗長化に加え、ルーター 2 台の並列運転に対応

MFR-6000 は、映像制作ワークフローの中核を成すルーティングスイッチャーとして、冗長化を図る各種オプションを設定することで、安定運用への対応を強化している。リダンダント電源ユニットを搭載することによる電源冗長化をはじめ、CPU 基板も冗長化することができる。さらに、MFR-6000 を 2 台並列運用するルーター連動機能を使用することで、マトリクス構成を 2 重化し、それぞれの MFR-6000 で CPU 冗長化と電源冗長化をすることで、CPU と電源の 4 重化構成も可能にしている。

■ Web GUI による設定が可能で、SNMP 監視システムへの組み込みにも対応

MFR-6000 は Web サーバーを内蔵しており、外部デバイスに設定用のソフトウェアをインストールすることなく、Web ブラウザー から Web GUI を用いて各種設定をすることが可能。各種障害への対応として、SNMP 監視システムへの組み込みも可能になっており、電源、ファン、CPU ステータス、SDI 信号検出状態、クロスポイントエラーなどの各種ステータスを監視し、障害発生 / 回復時に監視マネージャに対して SNMP トラップを送信できる。

■ 卓上タイプから 2RU タイプまで各種リモートコントロールユニットも提供

利用シーンに応じて活用できるリモートコントロールユニットは、16 ボタンの卓上タイプから 64 ボタンの 2RU タイプまで 10 種類のユニットを用意している。

◆ 朋栄：イスラエル Pixellot 社が開発したカメラシステムの取り扱いを開始

Pixellot と国内販売代理店の契約を締結し、2018 年 3 月より同社のスポーツ映像制作ソリューションの取り扱いを開始した。

Pixellot は、誰もが手軽にスポーツ番組を制作して Web ストリーミング配信することを可能にする自動スポーツ映像制作ソリューションを開発している。複数のカメラを組み合わせたマルチカメラデバイスにより、定点カメラで競技場全体を撮影することが可能。

デバイス内でマルチカメラ映像を自動的に合成し、競技フィールド全体の高解像度のパノラマ映像を生成して、試合を余すところなく収録、配信できる。スポーツ映像制作ソリューションは、目的に応じたソリューションが提供される。まず、標準機能を提供する Pixellot Standard から展開を開始する。



Pixellot Standard (Pixellot S) :

試合映像を通して、より多くのファンを獲得したいアマチュアクラブ、学校のクラブ、競技場 関係者、メディア制作会社向けに提供するフルオートマチックのスポーツ映像制作ソリューション。試合映像を、コストをかけずに 試合を 6K 高品質映像としてクラウド収録する。Pixellot 社が独自に開発した技術により、パノラマ映像から選手のいる範囲を自動的に認識し、トラッキングして、ゴールシーンなどのハイライトを自動的にズームアップして収録する。さらに、これらのハイライトを集めたダイジェスト映像も生成するオートマチックハイライト機能や、HD 映像やライブ映像、試合後の映像をカット 編集する機能などを活用できる。この Pixellot S のほか、プロスポーツリーグ、教育機関向けに提供するプロフェッショナル向け映像制作システムの Pixellot Advanced (Pixellot A)、映像ツールを使ってプレー内容を改善し、競争力を向上させたいプロスポーツチーム、教育機関向けに提供するスポーツビデオ解析機能搭載の映像コーチングソリューションの Pixellot Coaching (Pixellot C) についても 順次提供していく予定。

■ Pixellot について

Pixellot は、2013 年にイスラエルにて設立。放送技術とメディア技術、スポーツ技術を活用して、プロフェッショナルおよびセミプロフェッショナルスポーツイベントにおけるビデオキャプチャ、ビデオ制作、ビデオ配信の伝統的なシステムに対し、手頃な価格の代替案となる自動スポーツ映像制作ソリューションを提供している。Pixellot の特許取得済みテクノロジーソリューションは、無人マルチカメラシステムを定点に配置し、必要に応じてアングルを増やしながら、フィールド全体をカバーするパノラマ画像を合成することで生産ワークフローを合理化する。高度なアルゴリズムにより、プレーとハイライト生成のワークフローを自動的にカバーすることができます。Pixellot システムは、世界中の放送局、制作会社、クラブ、スポーツポータルサイト、コーチング ソリューション提供会社に導入されている。

【問い合わせ先】

株式会社朋栄

TEL:03-3446-3121

◆ヴィレッジアイランド：NAB2018 パートナーブース

「ビデオシステムとコンテンツマネージメント」

■DaletDigitalMediaSystems社（フランス）

[ブース SL8010]

◎メディアアセット管理マネジメントシステム（MAM）およびオーケストレーションプラットフォームの『DaletGalaxy（ダレット・ギャラクシー）』を中心とした様々なソリューションを紹介。

・クラウドハイブリッドワークフロー（AWS）

・Contents Discovery - AI ベースのプロダクトプレビュー

・最新 Social Media フレームワークを発表

・MAM での IMF ワークフロー管理

◎DALETAmberFin: 高品質トランスコーダ（Workflow, HEVC 対応）

◎DALETBRIO: IT 機器をベースとした低コストマルチチャンネル I/O プラットフォームオール IP（SMPTE 2022-6）

・IP（SMPTE 2022-2）/ ベースバンドへの移行時に、柔軟に対応。

■BarnFindTechnologies AS社（ノルウェー）

[ブース SL9630]

◎BarnMini-11: 12G-SDI と光インターフェースのコンバータ（12G-SDI, 10GbE, SFP, 4K 対応）

◎BarnOne: 光ルーティング機能を備えた 1U サイズの CWDM 光多重伝送装置

◎新フレームリリース

■intoPIX社（ベルギー） [ブース C8526] (TICOAlliance)

◎ヴィレッジアイランド社製VICO-4H・VICO-8 TICOSDI コンバータを展示

VICO-4H は、TICO コーデックによるビジュアリーロスレス画像品質、超低遅延（数十ラインの固定遅延）を生かし、更に SFP+ に対応することで、4K60P を CWDM による光伝送、SMPTE2022-6/2110 による IP 伝送を簡単に実現することが可能。同時に 3G-SDI 同軸ケーブルインターフェースも併せ持ち、既存の3G-SDI 対応機器、ベースバンドルーティングスイッチャとの連携が可能。高い拡張性を備える。

■GrassValley社（アメリカ） [ブース SL106]

◎GrassValley（Belden）社はSnellAdvancedMedia社を買取り、NAB2018 では統合されたニュース、ライブプロダクション、ネットワークング、コンテンツ配信用製品をデモ

「OTT およびCDN、デリバリー」

■DekTec Digital Video社（オランダ）

[ブース SU6717]

◎DTA-2132 DVB-S2X 復調カード

◎DTA-2195 12G-SDI 入力+出力/HDMI2.0 出力インターフェースカード

◎DTA-2182 x2 入力対応 マルチ H.264/Mpeg2 ハードウェアエンコードカード

◎DTA-2184 HEVC 4K ハードウェアエンコードカード（参考

展示）

◎ATSC3.0 tools: ATSC3.0 対応の変調、復調ボードを使ったデモ

■Sencore/Wellav社（アメリカ/中国）

[ブース SU1916]

◎HEVC@4K エンコーダ、デコーダ

◎SDI over IP コンバータ（SMPTE 2110, SMPTE 2022-6）

■Harmonic社（アメリカ） [ブース SU810]

◎Electra・ViBE シリーズ 4K / HDR 対応エンコーダ

◎OTT 向けには、ビットレートを 50% 削減しつつ同等映像品質を実現する Eye-QTM 技術や、低遅延CMAF 技術、そしてクラウド配信プラットフォーム VOS を展示。

■SeaChange社（アメリカ） [Renaissance ホテルスイートでのプライベート展示: 要事前登録]

◎Assetflow: OTT コンテンツワークフロー・ライフサイクルマネージメント

◎Adrenalin: OTT プレイリスト（編成）・マルチテナントマネージメント

◎Infusion: OTT ダイナミック広告差替え

◎NitroX: OTT プレイヤーGUI 統合

■Witbe社（フランス） [ブース SU9001CM]

◎QoE（Quality of Experience）評価ロボットスマートロボットが視聴デバイス（スマホ・タブレット・PC 他）のあらゆる操作を行い、各種 OTT 品質チェックを自動化。（最新 iOS/Android OS バージョンにも対応）

◎OTT/CDN ロボットによるサーバ・キャッシュ上のリソースチェックおよびネットワーク品質チェック。

◎VOD 新作コンテンツのテスト自動化などのユースケースの展示。

■Conviva社（アメリカ） [Wynn ホテルスイートでのプライベート展示: 要事前登録]

◎すでに世界 60 億以上のアプリ・デバイスに搭載された QoE 監視エージェントから常時収集されるビッグデータを元に、マルチ CDN 動的切り替えや、高度なコールセンターツール。

■CatchMedia社（アメリカ/イスラエル） [ホテルスイートでのプライベート展示: 要事前登録]

◎コンテンツ業界に最適化したアナリティクス& エンゲージメントツールPlayer 側利用データとコンテンツのメタデータを掛け合わせ、より高度な顧客満足向上マーケティングが可能。オーディエンス解析からキャンペーン発行・追跡・考察ツールまでを包括する。

■Broadpeak社（フランス） [ブース SU10801CM]

◎大幅なコストダウンを可能にする自社マネージド CDN ソリューションを展示。

nanoCDN は米国 CableLabs・欧州 DVB で規格化が進む mABR（マルチキャスト ABR）技術を今すぐ活用できるソリューション。

■Skyline社（ベルギー） [ブース SU6117]

◎ネットワークマネージメントシステムDataminer は、衛星放送受

信用サテライト設備のリモート監視・監視などで世界中および国内での採用実績を持つ。

■ Digigram 社 (フランス) [ブース N6615]

◎プロスペックのサウンドカード24bit AES/EBU Balanced XLR Broadcast Digital Audio Sound Card やEtherSound など高品質 カードを OEM 提供。

【問い合わせ先】

株式会社ヴィレッジアイランド

Mail:sales@village-island.com

◆リーダー電子：ブース No. : C8008 NAB SHOW 2018 で新製品を発表

リーダー電子は、創立 65 周年を迎えるにあたり、波形モニターとラスタライザーの製品ラインナップを増強する。NAB SHOW 2018 では、これらの新製品を中心に展示。新しい製品ラインナップは、12G-SDI までの SDI 信号と IP 信号に対応したハイブリッドタイプと SDI 信号に特化したコンパクトタイプで、ワールドワイドな市場をターゲットにしている。

ハイブリッドタイプの波形モニターおよびラスタライザーは、これまで長年培ってきた SDI 測定技術をベースに機能を強化した上で、IP 伝送について先進的なモニタリング機能を付加して、SDI と IP の混在システムにおいてもインターフェースの違いを意識することなく、ビデオコンテンツを制作できる環境を実現する。

SDI 信号は SDTV、HDTV、UHDTV(4K) に対応しており、CIE チャート、HDR シネゾーン、アイパターンの表示なども可能。オーディオ信号はエンベデッドオーディオ、AES/EBU、アナログオーディオ、ドルビー E に対応し、Loudness 測定も可能。外部同期入力端子に入力された同期信号の波形、位相、レベルの確認や各種字幕に対応するなど、豊富な機能を用意している。

IP 信号への対応は、パケットロスやチェックサムエラー、パケット不連続などの伝送エラーの監視と共にパケットジッター等、IP 化によって見えづらくなった伝送品質 (QoS) 監視機能を強化している。

操作面では、キースイッチを残しつつタッチパネルを採用し、USB マウスでの操作、イーサネット接続による遠隔操作、TELNET コマンドをスクリプトで実行していく自動測定など、様々な操作に対応できます。表示画面は、自由にレイアウトができる。

コンパクトタイプは、これらの機能を維持しつつ SDI 信号に特化して、小型化・ローコスト化を実現した波形モニターおよびラスタライザーです。4K ビデオ信号に対応しており、12G-SDI までのアイパターン表示も可能としている。

【問い合わせ先】

リーダー電子株式会社 営業技術グループ

TEL : 045-541-2228

◆伊藤忠ケーブルシステム取り扱い

① Venera Technologies ブース番号 : SU9921

NAB 2018 では、同社 QC ソリューションを OTT、OVP、および放送事業者が高度な機能を柔軟に導入するのを支援する方法を紹介する。

ファイルベースワークフローにおいて高度な QC 環境を提供する「Pulsar」は、新バージョンで、クレジットロールの検出確認機能の追加やトラックレイアウト機能の拡張が行われた。テンプレート関連では Amazon、hulu 用のテンプレートの追加及び Netflix の QC テンプレートがアップデートされた。

クラウド QC ツール「Quasar」は、独自のネイティブ Cloud QC サービスでクラウドをベースとしたワークフローに組み込みやすく、自社のワークフローを信頼できるクラウドに移行することができる。従来より AWS には対応していたが、今回は Azure の完全なサポートを紹介する。AWS S3 と Azure Blob ストレージの署名付き URL のサポートも Quasar に追加され、ストレージロケーションの資格情報を指定せずにユーザーがコンテンツを管理できるようになった。

② Facilis Technology ブース番号 : SL7920

Facilis は TerraBlock という共有ストレージサーバーを開発製造している北米のメーカーです。ICS 報映事業本部ではメーカー設立 2003 年当初から国内総代理店として販売サポートしており、全世界で 3000 サイト強、国内で 200 式近くの実績がある。

- 4K 編集ワークフローに耐えられる高速帯域
- 光ファイバー / イーサネット両方の接続に対応
- RAID 構築で犠牲になるデータ容量を極力低減
- 有効データ領域を 100% 近くまで帯域低下せずに使用可能
- コンテンツ管理に便利なオリジナルトラッキングソフト「FastTracker」付属
- クライアント / 本体増設の追加ライセンスや課金なし

NAB 2018 では 2017 に発表した Web Console ver.7.0 の進化版、7.1 を発表します。ボリュームのマウント / アンマウントが著しく向上した 7.0 より、15-20% の高速化やフェイルオーバー機能追加など、更にユーザーフレンドリーになった TerraBlock をご紹介する。

③ IHSE ブース番号 : SL10216

IHSE 社は、ドイツに本社を置く KVM システムのメーカー。KVM 専門メーカーとして約 30 年の実績があり、その優れた操作性と安定した動作で放送局のみならず、航空管制システムや交通管制システム、そして軍関連システムなどの Mission Critical な分野での豊富な導入実績がある。

日本では、地上波局 26 局、ポストプロダクション 41 社で利用されている。

今回の NAB の見どころ

- ・ SDI エクステンダー 486 シリーズ

従来の KVM システムにアドオン出来る SDI の入出力エクステンダー。

SDI映像をKVMシステムでモニタリングしたり、KVMシステム内のPC出力をSDIモニターでモニタリングが可能。

・Avid社・EVS社との連携展示

Avid ProTools | S6のコントロールサーフェースとの親密な連携や、EVS XT3システムやLSMコントロールシステムとの連携を各社ブースとの協業Eでデモンストレーションする。

「2日目の火曜日には、当社日本人スタッフが終日ブースにアテン
ド致します。」

④ Lasergraphics ブース番号：SU-10421

Director 10K-Director10Kはスプロケット・レスの走行系、プレッシャー・プレートやオブチカル・ピン・レジストレーションの採用により4.5%までのシュリンクしたフィルムに対応可能。35mm～8mmフィルムに対応し10Kまでのスキャンデータを生成。3フラッシュHDR機能オプション、コダックDICE機能のオプションでノイズリダクション・システムへのディフェクト・マット出力が可能。オブチカル・サウンドトラックに対応しWAVファイルを含めスキャンデータは1回のスキャンで複数のフォーマットの同時生成が可能。

ScanStation-35mm～8mmまで対応し30fpsで5Kスキャンデータの生成が可能。2フラッシュHDRオプションにより非常に暗いカラーフィルムまたはB&Wフィルムのスキャンングにおいてノイズを抑えながらディテールを引き出すことが可能になる。

その他コストパフォーマンスの優れたScanStation Personalを加えたスキャナーのデモに加えてMetastor(メタストアー) 40GbE対応高速NASやAlgoSoft Technologyのデジタル・レストレーションシステムを出展予定。

【問い合わせ先】

伊藤忠ケーブルシステム㈱

Tel. 03-6277-1830

◆ AWS/AWS Elemental (SU2022)

AWSでは過去1年間急進的な機能拡張を遂げており、2017年に1,400以上の機能/サービスが開始されている。NAB Show2018ではその中でも下記のような代表的なリリースを紹介する予定。

1. メディアワークロード

【機械学習/機械分析】AWS上で統合されたサービス/プラットフォームを通じて提供されるMachine Learningの紹介。自動メタデータ抽出によるコンテンツライブラリの提供、多言語サブタイトルの生成など。

2. ビデオワークロード

スケーラブルかつ省コスト・省稼働でプロフェッショナル品質の映像配信を実現するAWS Media Servicesの紹介。

3. コンテンツ制作

コンテンツ制作者向けソリューションとして、柔軟かつ手間のわからない制作ツールキットDeadline 10を紹介。

また、先進的な取り組みとして、特別なプログラミングや3Dグ

ラフィックスの専門知識を必要とせずに、バーチャルリアリティ(VR)、拡張現実感(AR)、3Dアプリケーションを素早く簡単に作成および実行できるSumerianを紹介。

◆ Bitmovin (SU9901CM)

DASH-IFのアライアンスメンバーであり、HTML5プレイヤーで先行しているBitmovinは、エンコードの分野でも近年存在感を増している。そのクラウドエンコーディングサービスは、多様なフォーマットをサポートしつつも、エンコードする時間に応じた使い勝手のよいSaaSサービスを提供している。Bitmovinのクラウドテクノロジーは、動画チャンクごとにクラウドインスタンスを割り当てることができ、巨大で大量のファイルに対して柔軟かつスケーラブルなサービスを提供する。またBitmovinはHEVCよりもオープンで高圧縮率が見込めるAV1の対応を表明している。もちろんBitmovin HTML PlayerもWebRTC対応済みなので、リアルタイムかつ高圧縮率な次世代配信を実現できるベンダである。

◆ Ericsson (SU720)

4E (Evolved/Envisioned/Everywhere/for Everyone) をテーマにエンドツーエンドのメディアソリューションを紹介する。

ブース内は4つのゾーンに分けられ、それぞれ以下の展示を行う予定。

1. コントリビューション・放送事業者向け

・カメラによるUHD映像のコントリビューションから配信までエンドツーエンドソリューション

・ATSC3.0による革新

・コントリビューションをクラウド化する技術

2. ユーザへの直接的アプローチ (OTT)

・効率性の高いオンデマンドコンテンツ配信

・仮想化された放送運用

・OTTと放送の統合ソリューション

・自分たちで運用・カスタマイズ可能な運用・解析プラットフォーム

・コンテンツと広告のパーソナライゼーション

3. ユーザエクスペリエンス

・TVの境界を押し広げるMediaFirst TVプラットフォーム

・業界最高水準の映像品質と圧縮性能

・Mediaroomプラットフォームの進化

4. TV VISION

・近未来のTVのあり方を提案すべく、複数の360度カメラの映像同期など実験的な技術の紹介

◆ Haivision (Ren Deluxe F)

映像のIP伝送プロダクトをもつメーカーが、プロダクトの動態展示のほか、伝送技術に対するラボでの先進的な取り組みや、3rd製品との連携デモを実施する。

中でも独自の伝送プロトコル「SRT」は昨年のNAB前後にオープンソース化され、Wowza Media Systems とともに「SRT ALLIANCE」を立ち上げており、1年経った今回のNABでは

Microsoft Azure が SRT 対応の Haivision トランスコーダ KB に正式対応したことを発表する予定。

また上記 KB の 4K 対応上位モデル KB MAX やクライアント向けプレイヤー Haivision PLAY/PLAY STB を新製品として発表する。

◆ Yospace Technologies (SU3414)

Sky Media や BT Sports、NetworkTen などグローバルで豊富な SSAI (サーバサイドダイナミック広告挿入) 技術提供実績をもつ Yospace CDS の紹介。

全豪オープンで実施したライブ配信広告挿入や、動画広告配信プラットフォーム SpotX との連携によるプログラマティック配信をスクリーンを用いてデモンストレーションする他、エンコーダ・広告サーバや CDN など、SSAI 実装を目指す事業者それぞれの構成に対して、個別具体的なアドバイスを実施する。

◆ Telestream (SL3316)

Telestream では、激化する OTT ビジネスの競争において、映像品質とユーザエクスペリエンスによる差別化が事業者にとって重要になってゆくことを受け、映像・サービス品質保証ソリューションに特に重点を置いている。

ブースでは買収した IneoQuest 社の映像品質管理ソリューションを統合した「Focus プラットフォーム」を発表し、下記のトピックスをテーマに人工知能(AI)も活用した最先端の映像ソリューションを展示する予定。

- ・映像分析およびサービス品質保証を促進する IQ ソリューション
- ・クラウドベースで仮想化された OTT 映像監視・品質保証ソリューション
- ・世界水準のトランスコーディングワークフロー自動化ソリューション「Vantage Media Processing Platform」
- ・マルチスクリーン向けライブ映像配信エンコーダ、パッケージャ「Lightspeed Live」

【問い合わせ先】

伊藤忠ケーブルシステム(株)

Tel. 03-6277-1830

◆ オタリテック(株)取り扱いメーカー出展情報

● LAW0 <N2813>

LAW0 / mc² 96

NAB2017 で発表されたドイツ LAW0 社の新しいフラッグシップコンソール mc スクエア 96。

SMPTE2110 をネイティブ・サポートすることによって IP ビデオ制作環境用に最適化された性能を提供し、単なるスタンドアローンのソリューションではなく、IP (SMPTE2110, RAVENNA/AES67, DANTE) あるいは MADI を介する複雑な制作インフラ内でのネットワークに対応できるよう設計されている。

LAW0 / V_Matrix

機能をソフトウェア定義する大容量汎用演算モジュールを用いた世界初のバーチャル放送システム V matrix。旧来のハードウェア・

プラットフォームの制約から解放されて、完全にバーチャルなリアルタイム・ルーティング / プロセッシング・インフラとなる。

V matrix システムはフレームと C100 コア・プロセッシング・モジュールと入出力ア・プレート、そして C100 にロードして必要な機能を作り出すバーチャル・モジュールから構成される。

複数の処理モジュールがリダンダントな 10GE/40GE 接続で IP ネットワークにつながれて分散化 IP ルーティング / プロセッシング・マトリクスを形成し、旧来のベースバンド・マトリクスのようなフレーム精度のクリーンなスイッチングを提供します。制作毎に要求が異なる場合、制作ワークフロー全体を短時間で再マッピングでき、コア・プロセッシング・モジュールの機能は入れ替えができますので、つねに変化するビジネス要件に対処できるようにシステム能力を簡単に変更したりアップグレード可能。

● Riedel Communications <C4337>

Riedel / Bolero

ドイツ Riedel Communications 社の新しいワイヤレス・インカム・システム Bolero はアンテナまでを AES67 で接続。

ベルトパックには高解像度の TFT タッチパネルを搭載、6ch+専用 REPLY キー 1ch を備え先進的な GUI でストレスのないスムーズなコントロールが可能です。さらにユーザーフレンドリーな機能も多く備え、各ベルトパック間でダイレクトな通話が可能なトランク・モード、NFC 認証によるワンタッチでのベルトパック登録、ベルトパックの外観デザインはデスクトップでの設置も可能なものになっています。

『Bolero』は AES67 スイッチと AES67 クライアント・カード搭載『Artist』フレームに接続した分散型アンテナを持つ、AES67 規格準拠 IP ネットワーク上で動作し、一体型の 1対1ローミング・インカム・システムとなります。分散型アンテナを追加すればネットワークはさらに頑強になる。

明瞭度の高い『Bolero』のボイス・コーデックは優れた聞き取り易さを実現、RIEDEL 独自の ADR 技術は、独特な受信回路設計をマルチパス RF 反射感度を下げるべく特別設計された複数のダイバーシティ素子と組み合わせることで、他のシステムが大いに苦労するような困難な RF 環境であっても『Bolero』を使用可能にしている。

Riedel / NAB 発表予定製品

- ・インターカムシステム: アーティストの新しい端末 1200 シリーズスマートパネルが登場予定。
- ・マルチメディア光ネットワークシステム MicroN が IP 対応に

● Junger / Easy Loudness

Junger <C3039>

日本国内でも多くのラウドネス・コントロール・プロセッサの導入実績を持つドイツ・ベルリンを拠点にする Junger からは 2ch ラウドネス・ダイナミクス・プロセッサ “EASY LOUDNESS” が登場する。

ステレオ放送と制作に最適な本機は、毎日どんな番組であっても、音声レベルとラウドネスを確実に自動的な管理下に置くために開発

された。

本機は Jungerno 代名詞であるダイナミックプロセッサアルゴリズム "Level Magic™" ラウドネス制御やフェイルオーバー切り替えや Dante™ /AES67 また AES から信号を受ける 2 つの独立したステレオ・プログラム用のトゥルー・ピーク・リミッティングを特長とします。

< Level Magic™とは >

独自のマルチループ制御原理に基づく Level Magic™アルゴリズムはカラーレーションやポンピングや歪みなどのないクリアで高音質な適応的広帯域ラウドネス制御を提供します。Level Magic™はユーザーが操作する場面が最小限になるように設計されており、設定を簡単に行うことができます。Level Magic™は ITU-R BS.1770 規格に基づく現行のあらゆる放送音声ラウドネス勧告、ならびに ATSC A/85 や ARIB TR-B32, Free TV OP-59, Portaria 354, EBU R128 の規格に適合します。

AVT <N5120>

ドイツ AVT 社からはテレフォンハイブリッドシステムが展示予定。

◆アストロデザイン：ブース番号 C7515

アストロデザインは、2018年4月9日(月)～12日(木)の4日間にわたり、アメリカ Las Vegas にて開催される「NAB SHOW 2018」に出展します。8K 技術を応用したさまざまな製品を始め、4K/HDR、計測装置など、最新製品を紹介する。

●出展予定製品

8K VR

魚眼レンズと 8K カメラの組み合わせによる VR 撮影システムで制作した広角方位映像を、8K レンダリングマシンで HMD にリアルタイム表示する。多数のカメラを使用する撮影システムの煩雑さから解放されるとともに、十分に満足できる解像度の表示映像を実現する。

8K + HPC

いわゆるビッグデータ部門ですでに活躍しているハイパフォーマンスコンピューティング。

超高速計算能力と膨大なデータ容量を武器に、高精細な 8K 映像をリアルタイムに取り込み。深層学習 (ディープラーニング) との連携で、監視、医療、エンタテインメントなど、様々な産業分野での利用に貢献。

8K 映像機器

人間の視力に換算すると 4.3 相当と言われている「8K の目」。この超解像度映像を実現するための核となるカメラおよび周辺機器とプロジェクタを展示する。

世界初の業務用 8K カムコーダー < 8C-B60A > (シャープ株式会社)。

VF やモニタ、専用メディアなど、快適な 8K 撮影をサポートする充実した周辺機器を展示する。

プロジェクタは、英 Digital Projection 社 (Delta Group) の基盤技術をベースに、アストロデザインが従来から培ってきた 8K 映像技術を盛り込むことで、大画面で明るい 8K をという要求に応えるべく世界初となる DLP 8K プロジェクタ INSIGHT LASER 8K Imaging by を発表する。

リアルタイム MTF 測定装置

撮像系 (カメラ、レンズ) の解像度特性 (MTF) を測定する装置。

測定精度の向上を図りつつ、カメラのズームとアイリスを操作しながらリアルタイムに測定できることが大きな特長である。

【NHK 放送技術研究所様との共同開発製品】

HDR 対応 4K コンバージョン

2018年12月から始まる新 4K8K 衛星放送では、HDR による番組制作が標準となる。

- ・4K/2K の解像度変換
- ・HDR/SDR のダイナミックレンジ変換
- ・ITU R BT-2020/709 の色域変換

など、映像制作の現場で必要な機能をすべて集約

スタジオや中継車など、これからのシステム構築の役立 1 台である。



Las Vegas, NV Exhibits April 9 - 12
<http://www.nabshow.com/>

国内展示会・出展社情報

◆ヴィレッジアイランド：第2回映像伝送 EXPO2018 出展

株式会社ヴィレッジアイランドは、東京ビッグサイトで開催される映像伝送 EXPO (VCOM2018) に出展する。

会期：2018年4月4日(水)から6日(金)

会場：東京ビッグサイト【ブース W2-53】

時間 10:00-18:00 (6日のみ 17:00 終了)

本会場では、4K 対応の TICO (SMPTE RDD-35) コーデックを搭載した「VICO-4」エンコーダ、デコーダを展示し、4K 画質確認、および 4K を HD にダウンコンバートした画質を披露する。VICO-4 および VICO-8 は、世界で初めて 4K または 8K 対応の TICO を組み込んだアプライアンス製品であり、すでに納入・稼働実績を持っている。

■ VICO-4:VICO は、1 ワイヤで高精細 4K 映像を伝送することが可能。



開発コンセプトは、業界標準の SDI 同軸ケーブルのインタフェースをもつこと。視覚的損失のないビジュアル ロスレス画質、および数十ラインの固定遅延といった超低遅延品質を 1RU シャーシで実現し、低価格であること。VICO-4 は、圧倒的なコストパフォーマンスで 4K 伝送をサポートする。

■ VICO-4H : VICO-4H は、画像伝送に光ファイバーを使用することが可能で、長距離伝送に適する。VICO-4 と同サイズ (1U) ながら、3G-SDI の他、SFP+ 対応光アダプターを装着することが可能。

■ VICO-4d8 (NEW! 世界初) VICO-4d8 は、待望の 4K 対応 TICO 8:1 圧縮レート版。従来の 4:1 から更に圧縮レートを上げることで HD-SDI 同軸ケーブル 1 本で 4K を伝送することができる。

【問い合わせ先】

株式会社ヴィレッジアイランド
Mail:sales@village-island.com

◆フォトロン：第4回先端デジタルテクノロジー展に「Vizrt」「TrackMen」を初出展

株式会社フォトロンは、2018年4月4日(水)～6日(金)の3日間に東京ビッグサイトで開催される「第4回先端デジタルテクノロジー展」に出展する。

当展示会においてフォトロンは、世界中の放送局での使用実績を持つリアルタイムグラフィックス演出システム「Vizrt (ビズアルティ)」と、TrackMen 社のイメージベースカメラトラッキングシステム「VioTrack F coded floor」による、イベントなどにおける手軽な AR 演出方法をご紹介します。ビデオ入出力の取り回しや、様々なデータとの連動を高品質なグラフィックスで実現し、現場で発生する様々な調整や修正などのあらゆる作業を安定的かつ迅速におこなえる。

【展示製品】

■リアルタイムグラフィックス演出システム「Vizrt」

Vizrt は、リアルタイムレンダリングエンジン「Viz Engine」と、シーン・デザインを制作するための「Viz Artist」の2つのソフトウェアを核とした、世界中の放送局で長年の実績を誇るリアルタイムグラフィックス演出システム。

■イメージベースカメラトラッキングシステム「VioTrack F coded floor」

VioTrack F coded floor は、従来のエンコーダー方式の信頼性とイメージベーストラッキングの柔軟性を組み合わせた TrackMen 社のカメラトラッキングシステムです。専用のマーカーシートと放送用カメラに取り付けた小型のセンサーカメラを使って、TrackMen 専用トラッキング PC が正確なポジションを割り出す。

【問い合わせ先】

株式会社フォトロン
TEL:03-3518-6276

◆朋栄 YEM エレテックス：「第1回 4K・8K 機材展」に出展

信号発生器ならびに信号処理機器を展示

朋栄 YEM エレテックスは、4月4日(水)から6日(金)の3日間、東京ビッグサイトで開催される「第1回 4K・8K 機材展」に出展する。

4K・8K に関連した信号発生器ならびに信号処理機器を展示。

■開催概要

日時：4月4日(水)～6日(金) 10:00～18:00 (最終日のみ 17:00 まで)

会場：東京ビッグサイト 西ホール No.W1-15

信号発生器

12G-SDI を含め多様な 4K 信号出力に対応。HD 信号も同時出力可能。異なった2種類の信号を出力可能。

12G-SDI 対応 4K 信号発生器 ESG-4100

Multi-Rate SDI 4K Test Signal Generator

4K 信号 (UHD 3840 x 2160p, Full 4K 4096 x 2160p) に対応したテスト信号発生器。60p/59.94p/50p の 4K ビデオ信号時に 12G-SDI 8 分配および Quad Link 3G-SDI 2 分配を同時に出力可能。音声信号は 16 チャンネルを 12G/3G-SDI 出力または 3G/HD-SDI 出力にエンベデッドします。このほか、MADI 信号出力は 2 分配出力を装備し、オプションで個々に制御することが可能になる。

ダイナミックレンジ・色域変換器

8K-DG、8K-422、4K および HD の各信号の色空間、およびダイナミックレンジを変換する装置。

8K リニアマトリクス色域コンバータ LMCC-8000A

8K LINEAR MATRIX COLOR CONVERTER

デュアルグリーン方式やフル解像度方式 (4:2:2) の 8K 信号、4K/HD 信号における色域やダイナミックレンジを変換。

ビデオ・オーディオ遅延測定器 EDD-5400

テストタイムコードにより映像、音声、音声チャンネル間、映像と音声間の遅延時間を測定する装置。

ビデオ・オーディオ遅延装置 EDA-2000

マルチフォーマット 3G/HD/SD-SDI 信号の映像 / 音声 / VANC を同時もしくは個々に設定可能な遅延装置。

【問い合わせ先】 株式会社朋栄 YEM エレテックス

【本社】 TEL : 03-3446-3497 (代表)

【大阪事業所】 TEL : 06-6366-0022 (代表)

【佐倉事業所】 TEL : 043-498-1303

◆アストロデザイン：「4K・8K 機材展」に出展

2018年4月4日(水)～6日(金)の3日間にわたり、東京ビッ

◆ JEITA : InterBEE 2018 出展募集を開始

一般社団法人電子情報技術産業協会 (JEITA: 会長 長榮周作 / パナソニック株式会社 取締役会長) は、2018年11月14日(水)から16日(金)までの3日間、幕張メッセ (千葉市美浜区) にて、音と映像と通信のプロフェッショナル展「Inter BEE 2018 (インタービー 2018)」を開催する。3月1日(木)から、Inter BEE 2018 の出展申込の受け付けを開始。一次申込締切は5月31日(木)、二次申込締切は6月29日(金)となる。

■超スマート社会「Society 5.0」の実現に向け、メディア総合イベントへと加速

Inter BEE は、メディア & エンターテインメント分野の新たなユーザ体験を提示する場として、「コンテンツ」を中核に位置づけ、「つくる (制作)」「おくる (伝送)」「うける (体験)」の要素を網羅した「メディア総合イベント」への発展を目指し、2018年はその取り組みを加速させる。

■デジタルコンテンツ EXPO 2018 を同時開催

今開催では、これまで日本科学未来館 (東京・江東区) で開催さ

クサイト (西ホール) にて開催される「4K・8K 機材展」に出展致します。

8K 技術を応用したさまざまな製品を始め、4K/8K 関連の、最新製品・技術を紹介する。

出展予定製品

SSD レコーダー HR-7518

8K 屋外収録・OBバンから局内・制作まで、幅広い運用性を発揮！ 充実の機能・操作性とインターフェースを備えた 2U ラック・レコーダー

8K 映像機器

世界初の業務用 8K カムコーダー < 8C-B60A > (シャープ株式会社)。VF やモニター、専用メディアなど、快適な 8K 撮影をサポートする充実した周辺機器を展示。

8K 工業用カメラ

小型の 8K カメラヘッド部をさらに二つに分離することで、機動力をいっそう高めました。8K 超高精細撮影を自在に操る醍醐味。

リアルタイム MTF 測定装置

撮像系 (カメラ、レンズ) の解像度特性 (MTF) を測定する装置です。NHK 技研様との共同開発。測定精度の向上を図りつつ、カメラのズームとアイリスを操作しながらリアルタイムに測定できることが大きな特長。

HDR 対応 4K コンバージョン

2018年12月から始まる新 4K8K 衛星放送では、HDR による番組制作が標準となります。

- ・4K/2K の解像度変換
- ・HDR/SDR のダイナミックレンジ変換
- ・ITU R BT-2020/709 の色域変換

など、映像制作の現場に必要な機能を、すべて集約。スタジオや中継車など、これからのシステム構築のお役に立てる 1 台となる。

れてきた「デジタルコンテンツ EXPO」(主催: 一般財団法人デジタルコンテンツ協会) を Inter BEE 会場内で同時開催する。

最先端コンテンツ技術の国際イベント「デジタルコンテンツ EXPO」を同時開催することによって、VR、AR、MR、3D、CG、AI、IoT、ドローン、ロボティクス等、コンテンツの制作支援や表現を豊かにする多様な技術を紹介し、未来を体験するとともに、コンテンツ技術のメディア & エンターテインメント分野への活用を促進させる。

■新 4K8K 衛星放送の開始と第 5 世代移動通信システム (5G) の可能性

2018年12月1日に開始される「新 4K8K 衛星放送」の周知・広報をはじめ、放送・通信事業者やコンテンツ制作者に向けた映像・音響に関する新技術の提案を更に進めるほか、2020年にサービス開始を目指す「第 5 世代移動通信システム (5G)」のユースケースとして期待されるメディア & エンターテインメント分野での活用の可能性を訴求する。

■昨年は過去最多の出展者数と来場者数を記録

昨年の Inter BEE 2017 は、はじめて幕張メッセ 1～8 ホールの全館を使用し、1,139 社が出展、コンファレンスは 102 セッションを実施し、開催 3 日間の来場者数は 38,083 名と、いずれの実績値においても過去最多の規模で開催した。

Inter BEE 2018 は、世界から日本に注目が集まる 2020 年に向け、「新たなメディアの可能性を世界に伝えよう。」という思いをスローガンに掲げて開催し、今回も出展者と来場者にとって、効果的で有意義な情報交流やビジネス創出の場を提供していく。

より多くの企業・団体が、Inter BEE 2018 に積極的に出展するよう広く募集していく。

【問い合わせ先】

一般社団法人日本エレクトロニクスショー協会

TEL:03-6212-5231

◆パナソニック：ワイヤレスステレオヘッドホン RP-BTS55/BTS35 を発売

パナソニック株式会社は、IPX5 相当の防水設計で、激しい運動をしても外れにくい、ワイヤレスヘッドホンを 4 月 20 日より発売する。

年々拡大を続けているワイヤレスヘッドホン市場。特にスポーツシーンではケーブルの煩わしさから解放され運動に集中できるワイヤレスヘッドホンのニーズが高まっている。

本製品は、IPX5 相当の防水設計により汗をかいたり、突然の雨でも使用できる。また耳の形に合わせて変形可能なフレキシブルイヤークリップ採用なので激しい動きでも外れにくい安定した装着性を実現した。さらに RP-BTS55 にはブルーエッジ LED ライトを搭載したので周囲からの視認性が向上しナイトランにも最適。また接続機器の音声アシスタント機能を起動して選曲などの楽曲操作や電話の発信も音声で操作ができるので、両手がふさがったトレーニング時にも対応できる。

<主な特長>

- 防水仕様を強化。IPX5 相当の防水設計で汗にも強い
- フレキシブルイヤークリップを採用。
 - ・安定した装着感で激しい動きでも外れにくく耳にしっかり固定
- 使い勝手と機能をさらに向上 (RP-BTS55)
 - ・ブルーエッジ LED 搭載で周囲からの視認性が向上
 - ・高音質 AAC コーデック対応
 - ・音声アシスタント起動機能搭載

【問い合わせ先】

パナソニック株式会社

Mail:press-consumer@ml.jp.panasonic.com

◆エレクトロ：SPL 社新製品 PASSEQ 販売開始

2005 年、SPL はマスタリング・イコライザー Model 2595 Passeq をリリースし、このパッシブ・イコライザーは、同社の開発した 120V レール・テクノロジーを採用した最初の製品。この Passeq の優れた特性を引き継ぎつつも、さらに改良を施したモ

デルが「PASSEQ」Model 1650 (Black) / Model 1654 (Red)。



Model 2595 Passeq は、各チャンネルに 12 の周波数切替が可能な周波数レンジを 3 つ持っている。72 のパッシブ・フィルタ (チャンネルごとに 36 のブースト、36 のカット) を使用した Passeq は、かつてないほど強力なパッシブ EQ システムであった。

そして新しい PASSEQ では、選択できる周波数が変更されており、最適なコイル、コンデンサ、抵抗の組み合わせによって Q 値の調整も施されている。特にミッドバンドは、以前のモデルに比べさらに調和が取れている。

パッシブ・フィルタのコンポーネントをうまく組み合わせることで、アクティブ・フィルタにはない美しい音響的な結果を生み出している。このプロセスの重要な要素として、コイルとコンデンサによる負荷とサチュレーションが挙げられる。アクティブ・フィルタが特徴とする極めて速い応答とは対照的に、パッシブ・フィルタで起こるレイテンシは結果として音楽的な質感を表現する。

さらに新しい PASSEQ は、25kHz と 35kHz の周波数を拡張した HF+ バンドを持っている。また以前のモデルと異なり ±10dB の調整が可能となった出力部は、次のデバイスへ適切なレベルを提供する。

PASSEQ は、Gain、Q (HF+)、Output を 41 ステップのポテンシオメーターで調整する。他のパラメータは、12 ポジションのスイッチで調整を行う。これらのポテンシオメーターとスイッチは、設定の正確なりコールを可能にする。

SPL の新しいマスタリングデバイスは、Auto Bypass 機能を搭載している。これにより各チャンネルのバイパスは、任意の間隔で自動切り替えさせることが可能となる。

主な特長

- ・デュアルチャンネル・マスタリング EQ (4U)
- ・ハイボルテージで動作するオペアンプ技術による 120V テクノロジーを採用
- ・パッシブ・フィルタ・ネットワークにより音楽的な質感を表現
- ・144 個のパッシブ・フィルタを使用 (各チャンネルに 72 個)
- ・最大 35kHz のエアバンド・イコライゼーション (NEW)
- ・ミッドレンジのスタート周波数を 200Hz に変更 (NEW)
- ・出力を +/- 10dB の範囲で調整 (NEW)
- ・インターバル・コントロール可能な Auto Bypass 機能 (NEW)
- ・すべてのフィルタにハイグレード・シングルコアコイルを使用 (NEW)
- ・XLR 入出力のリレーハードバイパス付き

【問い合わせ先】

株式会社 エレクトロ

TEL:03-3530-6181

◆オタリテック：英国 PMC 社プロフェッショナル製品の輸入代理店業務を開始

オタリテック株式会社では 2018 年 3 月 15 日より英国 PMC 社のプロフェッショナル・モニター・スピーカー製品の日本国内代理店業務を開始することとなった。同社では日本国内での販売・サポート体制を整え、顧客へのサービスを強化していく。今後の販売・サポート業務については下記の通り。

■ PMC 社プロフェッショナル製品のお問い合わせ

オタリテック株式会社 営業部 :03-6457-6021

オタリテック株式会社 技術部 :03-6457-6022 (サポート受付)

■ ウェブサイトについて

国内サイトは 3 月 15 日より順次運営を開始。

オタリテック株式会社 PMC 日本語サイト

www.otaritec.co.jp/products/pmc/index.html

PMC 社インターナショナル・サイト (英語)

www.pmc-speakers.com

■ コンシューマーオーディオ製品について

コンシューマー製品につきましては株式会社 CSR での取り扱い

【問い合わせ先】

オタリテック株式会社

TEL:03-6457-6021

◆アビッドテクノロジー：Avid 編集者が第 90 回アカデミー賞でオスカーを席卷

映画編集賞、音響編集賞、録音賞、作曲賞の各部門のノミネート者と受賞者は、Avid のクリエイティブツールとワークフローソリューションを利用して、今年の最も称賛された映画を制作。映画編集部門では、「ダンケルク」の Lee Smith 氏 (ACE) のほか、「ベイビー・ドライバー」の Paul Machliss 氏 (ACE) と Jonathan Amos 氏 (ACE)、「アイ、トーニャ 史上最大のスキャンダル」の Tatiana S. Riegel 氏 (ACE)、「スリー・ビルボード」の Jon Gregory 氏 (ACE)、「シェイプ・オブ・ウォーター」の Sidney Wolinsky 氏 (ACE) のすべてが、業界で最も信頼性の高い編集システムである Media Composer® を使用して作品を編集した。Wolinsky 氏は次のようにコメントしている。「Avid Media Composer は私が編集に使用した最初のデジタルシステムであり、今でもお気に入りです。Media Composer で利用可能なオプションの選択肢が多いことで、あらゆる編集状況に適切なツールを選ぶことが可能です。」

音響編集賞、録音賞、主題歌賞カテゴリーの各ノミネートは、業界標準のデジタルオーディオワークステーションである Avid Pro Tools® が使用されました。録音賞は「ダンケルク」の Mark Weingarten 氏、Gregg Landaker 氏、Gary A. Rizzo 氏に贈られ、音響編集賞は「ダンケルク」の Richard King 氏と Alex Gibson

氏に贈られました。主題歌賞は「リメンバー・ミー」の Kristen Anderson-Lopez 氏と Robert Lopez 氏に送られた。

サウンドミキサーの Doug Hemphill 氏と Ron Bartlett 氏は、「ブレードランナー 2049」で録音賞にノミネートされた。Bartlett 氏は、次のようにコメントしている。「Pro Tools は、ポストプロダクションサウンドで作業するすべての基盤です。今まで夢にも見たことのないサウンドを作り上げる能力を私たちに与えました。細部へのこだわりとクリエイティブな可能性は無限です。」

Denis Villeneuve 監督と緊密に協力した Hemphill 氏は、次のように述べている。「Denis 監督と取り組んだブレードランナー 2049 は私の映画のキャリアのハイライトの 1 つでした。彼は私たちが共に過ごす全ての瞬間で、クリエイティブな発想を生み出します。本当に素晴らしいです。」

作曲賞カテゴリーでは、受賞した「シェイプ・オブ・ウォーター」の Alexandre Desplat 氏が Avid Sibelius® を使用していた。Avid の CEO 兼プレジデント、Jeff Rosica は次のように述べている。「オスカーは映画のクリエイティビティと技術の高さを賞賛しています。映画編集、音響編集、録音、作曲、主題歌のすべてのカテゴリーで Avid ユーザーが受賞・ノミネートされたことに非常に興奮しています。これらの才能ある人たちがグローバルなユーザーコミュニティの一員であることは大変な栄誉です。我々は彼らの業績を称賛し、今年の賞を賞賛します。」

【問い合わせ先】

アビッドテクノロジー株式会社

Mail:kenta.otsuka@avid.com

◆NHK：第 47 回 番組技術展を開催

4 月 22 日 (日) ~ 24 日 (火) から 3 日間、「番組技術展」を東京・渋谷の NHK 放送センターで開催する。全国の NHK では、視聴者に、わかりやすく、より魅力的な番組を届けるために、放送現場ならではの発想で創意工夫を凝らしたさまざまな放送機器を開発している。最新の放送機器、番組制作や緊急報道への取り組みなど、「番組技術展」では最新の開発成果を年に一度、一堂に集めて紹介する。視聴者にも NHK の放送技術を直接「見て・触れて・知って」いただくイベント。来場者からの意見や要望を活かして、さらなる開発・改善に取り組み、放送サービスの充実に努めていく。

【日時】平成 30 年 4 月 22 日 (日) ~ 24 日 (火)

10 時 00 分 ~ 17 時 00 分 ※入場は閉館 30 分前まで ※入場は無料 【会場】NHK 放送センター 4 階 正面玄関ロビー

【問い合わせ先】

NHK 日本放送協会

Web:<http://www.nhk.or.jp/bangiten/>

◆ヴァイテックビデオコム：会社名変更のお知らせ

ヴァイテックビデオコム株式会社は、2018年4月1日よりヴァイテックプロダクションソリューションズ株式会社となる。なお、所在地、電話番号などの変更はない。

新社名：ヴァイテックプロダクションソリューションズ株式会社
〒105-0011 東京都港区芝公園 3-1-38 芝公園三丁目ビル 1 階
TEL：03-5777-8040 / FAX：03-5777-8041
大阪オフィス
〒531-0072 大阪府大阪市北区豊崎 5-2-13
TEL：06-6359-2440 / FAX：06-6359-2441
ホームページ：www.vitecproductionsolutions.jp

【問い合わせ先】

ヴァイテックプロダクションソリューションズ株式会社
TEL:03-5777-8040

◆日本ミキサー協会：特定非営利活動法人設立、団体名称変更

レコーディングエンジニアの団体である「日本ミキサー協会」(略称：JAREC)は、特定非営利活動法人を設立し、4月1日より新団体名「特定非営利活動法人日本レコーディングエンジニア協会」へ移行する。

今後は広く一般市民を対象とする事業展開を図るとともに、レコーディングエンジニアのスキルや地位向上の為のセミナー等、活動をより充実させていく。

【問い合わせ先】

特定非営利活動法人日本レコーディングエンジニア協会
TEL: 03-3200-5811
<http://www.sharpintellos.com/>

◆ブラックマジックデザイン

X ファクターのイギリス・ツアー、Blackmagic Design のライブプロダクション・ワークフローを使用

Blackmagic Design は、2018年のX ファクター・ライブアリーナツアーのIMAGに、ATEM 2 M/E Broadcast Panelを併用したATEM 2 M/E Production Studio 4Kを中心としたPPU(周辺処理装置)が使用されたと発表した。キャプチャーは、URSA

Broadcast を含む HD のマルチカムで行われた。

同ツアーは、ライブイベントを専門的に扱う PRG XL Video により制作され、同番組の勝者が 3 週間にわたりイギリス国内 15 都市で公演を行なった。Vis a Vis Video のスチュアート・マーサー (Stuart Merser) 氏がツアーのすべてのビデオ制作の指揮を取り、同番組のスタジオ監督であるディッコン・ラムジー (Diccon Ramsey) 氏と協力し、ライブのセットアップがテレビシリーズのスタイルや雰囲気と一致するようにした。

「ライブセットアップは土曜の夜の放送スタイルと似ていて、司会者が進行を務め、観客が毎晩パフォーマンスの投票を行いました。したがって、テレビ放送とアリーナでのコンテンツが編集面で一貫性を持っている必要があります、ディッコンがその責任を追っていました」とマーサー氏は説明する。

「ライブカメラの信号、事前収録した各出場者の紹介フッテージ、誰もが知る X ファクターのグラフィックをスイッチャーに送信し、ディッコンが ATEM パネルで舵取りを行うことで、毎晩シームレスなプロダクションを行えました。」

マーサー氏は、URSA Broadcast に Canon の 14ex4.5 ENG レンズを取り付け、ステージ両側の大型 LED スクリーンで映し出すフッテージを 1080i で撮影した。Vislink RF でカメラを操作してメインステージのアクションを撮影したり、URSA Broadcast をショルダーマウントに切り替えて、観客席の中に設置された第 2 ソロステージの出演者を撮影した。

「アリーナツアーでは、観客を引き入れることが非常に重要です。それを踏まえると、URSA Broadcast は、三脚撮影からショルダーマウントに瞬時に切り替えて、アリーナ内を移動して撮影できる点で本当に優れていますね。同カメラは柔軟性が高いので、思いついた瞬間に行動に移せ、常にパフォーマンスを間近で撮影できます」と同氏。

毎晩、6 名の全く異なるライブアーティストが公演を行なったため、舞台のセットアップは互いに大きく異なり、それをカメラが非常に良く扱えたことに同氏は感心したと言う。「各パフォーマンスは、照明、パイロテクニクス、映し出されるビデオが異なっていたため、キャプチャーする要素が多数ありました。カラーは、大型スクリーンでも非常に美しく、ライブプロダクションにおけるカメラの優秀さに本当に驚かされました。」

「X ファクターのツアーで使用された PPU は、信頼性と柔軟性に富み、様々なツアープロジェクトの中核となっています。Blackmagic Design のルーター、スイッチャー、コンバーターは、ライブイベントのスケジュールをスムーズにこなす上で、極めて大きな役割を果たしています」と同氏は締めくくった。

【問い合わせ先】

pr-jp@blackmagicdesign.com
Tel: (03) 5465 2101
